

六

372. /

11 77

修身初訓卷之六

緒言

是ヲ第四年後期中等生徒ノ用并ル  
所トス第一ヲ養德トシ次ヲ節儉ト  
シ次ヲ謙遜トシ次ヲ正直トシ次ヲ  
廉潔トシ信義之二次キ忠恕之二次  
キ報恩ヲ以テ終ル凡ソ八章首章ノ  
養德修身ノ根基ニシテ節儉以下之  
ヨリ生ス

圖書 和圖書 遡



a1380321916a

福岡教育大学蔵書

修身初訓  
編者誌

修身初訓卷之六

宮本茂任編輯  
宗盛年校閱

第一章

○曲禮ニ曰ク、敬マサルヲ勿レ、儼トシテ思フカ如ク、辭ヲ安定ニセヨ、民ヲ安クセン哉ト、陳選曰ク、敬マサルヲ勿レトハ、其心ヲ正クスル也、儼トシテ思フカ如シトハ、其貌ヲ正クスル也、辭ヲ安定ニセヨトハ、其言ヲ正クスル也、民ヲ安セン哉トハ、已テ正

クシテ物正シキ也、

○徐積字ハ仲車、初安定胡氏ニ從テ學フ、心ヲ潛メ  
カメ行ヒ、復仕進セズ、其學至誠ヲ以テ本トス、母ニ  
事ヘテ至孝ナリ、自ラ言フ、初安定先生ニ見エテ退  
クトキ、頭ノ容少シ偏<sup>カク</sup>ケリ、安定忽聲ヲ勵シ曰ク、頭  
ノ容ハ直クセヨト、某因テ自ラ思フ、獨頭ノ容直ノ  
ミナラス心モ亦直カラントヲ要ス、此ヨリ敢テ邪  
心ヲ有セスト、卒シテ節孝先生ト謚ス、

○幼學ノ士ハ、先<sup>ツ</sup>人品ノ上下ヲ分別セン<sup>コト</sup>ヲ要ス、  
何ナル者カ、是聖賢爲ル所ノ事ソ、何ナル者カ、是下

愚爲ル所ノ事ソト、善ニ向ヒ惡ニ背キ、彼ヲ去テ此  
ヲ取ル、此レ幼學ノ先スヘキ所ナリ、顔子孟子ハ亞  
聖ナリ、之ヲ學ハ、未至ラズト雖、亦以テ賢人トナ  
ル可シ、今ノ學者若シ能此ヲ知ラハ、則顔孟ノ事我  
モ亦學フ可シ、

○魯哀公孔子ニ問テ曰ク、弟子孰カ學ヲ好ムト爲  
ル、孔子對ヘテ曰ク、顏回ト云フ者アリ、學ヲ好ム、怒  
ヲ遷サズ、過ヲ貳セズ、不幸短命ニシテ死ス、今ハ則  
亡シ、未學ヲ好ム者ヲ聞カズ、

○孟子ノ少キヤ、嬉戲スルニ墓間ノ事ヲ爲シ、踴躍

徒<sup>ハ</sup>失<sup>ハ</sup>  
誤<sup>ラ</sup>ラ<sup>ズ</sup>ニ<sup>ハ</sup>誤<sup>ル</sup>

築埋ス、孟母曰ク此以テ子ヲ居ク所ニ非、乃去テ市  
ニ舎ス、其嬉戯スルニ賈<sup>ツ</sup>術<sup>ガ</sup>ヲ爲ス、孟母曰ク此以テ  
子ヲ居ク所ニ非、乃徒テ學宮ノ傍ニ舎ス、其嬉戯ス  
ルニ乃俎豆ヲ設ケ、揖讓進退ス、孟母曰ク此真ニ以  
テ子ヲ居クベシト、遂ニ之ニ居レリ、孟子既ニ長シ  
テ學ニ就キ、遂ニ大儒ト爲レリ、  
○孟子曰ク、心ヲ養フハ欲寡キヨリ善キハナシ、其  
人タル欲寡ケレハ、存セサルヲアリト雖スクナシ、  
其人タル欲多ケレハ、存スル者アリト雖スクナシ、  
朱元晦曰ク、口鼻耳目四肢ノ欲ノ如キ、人ノ無キ能

ハサル所ト雖、節セサレハ未其本心ヲ失ハサル者  
アラス、學者ノ深ク戒ムヘキ所ナリ、

○宋司城子罕ニ、或人美玉ヲ贈ル、子罕受ケズ、或人  
曰ク、此玉、玉人ニ示スニ、寶ナリト云フ、故ニ贈ルト、  
子罕曰ク、我ハ貪ラサルヲ以テ寶トス、汝ハ玉ヲ以  
テ寶トス、汝今汝ノ寶ヲ以テ我ニ贈ラハ、我モ亦貪  
ラサル寶ヲ喪ス、然ランヨリ、人々各其寶ヲ寶トス  
ルニ若カズト、終ニ受ケズ、

○後漢ノ馬援ハ、我身ヲ馬革ニ裹ミ、郊原ニ棄ラレ  
ント云フ、梁ノ王彥章ハ、豹死シテ皮ヲ留メ、人死シ

作身不言 卷之六  
チ名ヲ留ムト云フ、豪傑ノ志ヲ立ル思フ可シ、泰平ノ時ハ、酒色貨財ヲ嗜ム種々ノ私欲ハ我敵ト思ヒ、志氣ヲ勇猛ニシ、撃テ之ヲ破リ、身心ヲ堅固ニ守ルベシ、艮齋閑話

○朱子克己ノ工夫ヲ論シテ曰ク、項羽章邯ト鉅鹿ニ戰フ時、舟ヲ沈メ、釜ヲ破リ、三日ノ糧ヲ持チ、必死トナリテ戰フ如クスベシト、王陽明ノ語ニ、山中ノ賊ヲ破ルハ易ク、心中ノ賊ヲ破ルハ難シト、同上

○後光明帝列聖中特ニ學術ヲ務メタマヒ、天稟ノ偏ニテ雷ヲ畏レタマフ、嘗テ謝氏ノ性偏ニシテ克

チ難キ處ヨリ、克チ持チ去ルト云フ語ヲ愛シ、自ラ謂ヘラ久朕カ雷ヲ畏ル、是レ即性ノ偏ナル處也ト、一日雷ナルト甚シキニ、簾外ニ出御シ、天ニ對シ、霹靂タル聲ヲ聞キ、雷ノ止ムニ至ルマテ、顔色ヲ變セス、坐シタマヒタリ、是ヨリ雷ヲ畏ル、ト毫モナク爲リタマヘリ

## 第二章

○司馬君實訓儉文ニ曰ク、夫レ儉ナレハ則欲寡シ、君子欲寡ケレハ、則物ニ役セラレズ、以テ直道ニシテ行フベシ、小人欲寡ケレハ、則能身ヲ謹ミ用ヲ節



ニシ罪ニ遠カリ家ヲ豊ニス侈レハ則欲多シ君子  
欲多ケレハ則富貴ヲ貪リ慕ヒ道ヲ枉ケ禍ヲ速ク  
小人欲多ケレハ則求メヲ多クシ用ヲ妄ニ家ヲ  
敗リ身ヲ喪フ

○夫レ一人儉ヲ知レハ則一家富ム王者儉ヲ知レ  
ハ則天下富ム蓋奢ル者ハ三歳ノ計一歳ニコレ用  
井奢ル者ハ富メ民足ラス儉ナル者ハ貧ケレ民餘  
アリ奢ル者心常ニ貪ク儉ナル者ハ心常ニ富ム子譚  
○夫レ禮義廉耻ハ富足ニ生シ貪汚侵奪ハ貧困ニ  
起ル富足ハ儉約ニ生シ貧困ハ奢侈ニ起ル是ヲ以

テ君子常ニ約ニ反リ朴ニ還ルヲ務トシテ愚人ノ  
誹笑ヲ畏レズ獨此志ヲ行フノミ初學知要

○數椽以テ風雨ヲ蔽フベシ必シモ廣厦大庭ナラ  
ス繩床以テ夢魂ヲ安スベシ必シモ花梨螺鈿ナラ  
ズ竹椅以テ賓客ヲ待ツベシ必シモ理石金漆ナラ  
ズ五簋以テ間闕ヲ叙スベシ必シモ盛席優觴ナラ  
ズ一分ノ奢侈ヲ去レハ便一分ノ罪禍少ク一分ノ  
經營ヲ省ケハ便一分ノ道義多シ寒松堂雜著

○醍醐帝臨御日久シク精ヲ勵シ治ヲ圖ル延喜中  
新ニ格制立チシニ風俗奢侈犯ス者多シ帝之ヲ患

ヒ給フ一日藤原時平盛飾シテ入ル帝見テ大怒  
リ職事ヲシテ之ヲ讓メシメ曰マハク今嚴ニ格制  
ヲ立テ左大臣身百僚ニ長トシテ首トシ國ヲ犯  
ス大臣舉動豈此ノ如クナルヘケシヤ時平惶懼シ  
テ第二歸リ屏居スル月餘是ヨリ奢侈頓ニ改レリ  
○儉約ハ我身ノ奉養ヲ輕クスル善徳ナリ賊ヲ惜  
ミテ人ニ施サバハ各畜ナリ各畜ハ仁義ノ道ニ  
背ク惡事ナリ人ノ儉約ヲ各畜ナリト謗リ又巳ノ  
各畜ヲ儉約ナリト思フニナカラ非ナリ初學訓  
○黑田如水自ラ奉スル丁儉薄ニ富貴ト爲ルト雖

未嘗テ少シクモ奢侈ナラス其政治ヲ行フニモ瑣  
々タル小費ヲ妄用セス然レモ義ノ在ル所ニ於テ  
ハ聊々惜スル所ナシ文祿ノ役ニ日根野備中守貧  
ニシテ支度整ハス如水ヨリ軍用ノ金ヲ借タリ朝  
鮮ノ事畢リ如水ノ家ニ至リ金ヲ還サントス如水  
ノ家偶人ノ贈レル魚アリ如水左右ニ命シテ魚ノ  
肉ハ塩藏シ其骨ツキヲ客ニ供セヨト云フ備中守  
之ヲ聞キテ其各畜甚シト思フ既ニシテ金ヲ還シ  
謝ヲ陳ヘ之ヲ還シケレハ如水曰ク是レ何ヲ還ス  
トヲ用シヤ初二奉贈スト云ハ君受ケサント



思ヒ、タ、君ノ求ニ應シタリ、吾平生金ヲ貯ルハ、軍旅ノ用ニ立ント欲シテ也、此金既ニ君ノ軍旅ノ用ニ立チシハ、我本意ノ存スル所ナリトテ、再レ氏受ケス、唯其土宜ノミ、厚情ヲ謝シテ受ケタリ、備中守是ニ於テ如水ノ無用ノ費ヲ省ク、決シテ吝嗇ニ非サルヲ知り、大ニ感嘆スト云フ、  
○滿盛ノ事ハ、聖人ノ慎ム所ナリ、居宅落成ノ時、故ニ三五ヲ缺キテ置サルヲ、史記ニ見エ、衣成レハ則粧ヲ缺キ、宮成レハ則隅ヲ缺クト、說苑ニ見エ、皆滿盛ヲ恐ル、意ヲ寓スルナリ、民齋閑話

○有馬頼永、少シテ襲封シ、奢侈ヲ抑ヘ、民苦ヲ救ント欲ス、嘗テ函工今井某ニ命シ、甲冑ヲ製セシム、參政曰ク、今儉約ヲ行ハル、ト雖、兵器ハ他ノ器ニ異リテ、永久ニ傳フル物ナリ、其粧飾宜ク純金製ヲ用井ラルヘシト、頼永聽スシテ曰ク、汝ノ言理ナキニ非、然レ氏今國用窮迫シ、民ヲ恤ムニモ意ノ如クナラス、然ラハ兵器ト雖、無用ノ粧飾ヲ事トシ、後世ニ遺スハ、我愧ル所ナリト、終ニ純金製ヲ用井ス、其自儉薄ニシテ、民ヲ恤ム、是ノ如シ、

### 第三章

○子路曰久敢テ問フ滿ヲ持ツ二道アリヤ孔子曰久聰明睿知之ヲ守ルニ愚ヲ以テシ、功天下ニ被ル之ヲ守ルニ讓ヲ以テシ、勇力世ニ振フ、之ヲ守ルニ怯ヲ以テシ、富四海ヲ有ツ、之ヲ守ルニ謙ヲ以テス、此謂フ所之ヲ損シテ又之ヲ損スル道ナリ

○易ニ曰久天道ハ盈ルヲ虧テ而メ謙ルニ益シ、地道ハ盈ルヲ變シテ而メ謙ルニ流シ、鬼神ハ盈ルヲ害フテ而メ謙ルニ福シ、人道ハ盈ルヲ惡ンテ謙ルヲ好ム、

○學問スル者ハ先ツ謙ヲ以テ基トスベシ、基トハ

家ヲ作ル土臺ナリ、土臺ヲ繁カサレハ家ヲ作りカ  
タシ、謙ナラサレハ善ニ進ム下地ナク學問ノ道立  
チカタク學問スト雖益ナシ、家ヲ作りテ基ナキカ  
如シ、是ヲ以テ謙ヲ學ノ基トス能謙レハ我身ヲ善  
トヒス人ノ善ヲ取用井、已ヲ立スシテ人ノ善ニ遷  
レハ善ニ進ムコト極リナシ、初學訓

○矜ハ謙ノ反對ナリ、我ニ何等ノ才能善行アリト  
モ、銜耀ス可ラス、才能ニ矜レハ才能ヲ失ヒ、善行ニ  
矜レハ善行ヲ喪ヒ、是ヲ去ラサレハ學問スト雖益  
ナキノミナラズ、却テ害アリ、才カノ進ムニ隨テ已

修身初言 卷之六  
ニ矜ルヲ以テ、惡愈長ス、學ハサルニ如カス、同上  
○學問專ラ博學ノ譽ヲ先ニシ、已ニ勝ル者ヲ嫉ミ、  
已カ名ヲ立ント欲シ、驕慢ノ心ヲ逞シ、忠ト孝トヲ  
外ニシ、或ハ狂態ヲ成シ、或ハ異相ヲ成ス、是驕慢ノ  
邪心、此人ヲシテ魔境ニ陷ラシムルナリ、戒メ懼ル  
ベシ、或ハ學問セサル者ト雖、暗處ニ魔ヲ來シ、驕慢  
ノ心枝葉ヲ生シ、人ヲ視ルヲ當昆蟲ノミナラズ、親  
ヲ愚トシ、君ヲ非トシ、朋友ヲ嘲リ、孝悌忠信ノ道ヲ  
妨ケ、邪魔ト相通シ、惡魔ト法ヲ合ス、是ヲ魔境ニ陷  
ルト云フ、翁問答

○貝原益軒ハ博識篤行ヲ以テ天下ニ聞ユ、而シテ  
務メテ自謙遜シ、常ニ曰ク、我資性拙劣、能スル所ナ  
シ、唯恭默道ヲ思ヒ、昊天罔極ノ恩ニ答フト、其著述  
ノ盛ナル、殆ト比類ナクシテ、其文質實、率子國字ヲ  
用井、盲俗ヲ諭スニ在リ、少クモ文才ヲ術フ意ナシ、  
嘗テ京師ヨリ歸ルトキ、路ヲ海上ニ取ル、同船數人  
姓名ヲ相知ラス、喋々トシテ相語ル、中ニ一少年アリ、  
意氣傲然トシテ頭ヲ掉リ、舌ヲ鼓シ、經義ヲ解説シ  
テ止マス、益軒沈黙シテ聽シ、文字ヲ知ラサル  
者ノ如シ、既ニシテ船至ル所ノ岸ニ達シ、將ニ別ン

トシテ、各姓名郷里ヲ相告クルトキ、益軒自ラ筑前ノ貝原久兵衛ト稱ス、少年始テ益軒タルヲ知リ、羞縮シテ自ラ容ル、ニ地ナク、姓名ヲ陳ヘス、巖竄シテ去レリ、

○晋ノ師齊ノ師ト鞍ニ戰フ、卻克中軍ニ將タリ、士燮荀庚ニ代リテ上軍ニ將タリ、欒書下軍ニ將タリ、既勝テ歸ル、士燮後レテ國ニ入ル、父士會曰ク、我汝ヲ待チ望ムヲ思フナカリシヤ、士燮對ヘ曰ク、師功アリ、國人喜テ以テ之ヲ迎フ、人ニ先ツテ入ラハ衆必耳目ヲ屬ケン、是元帥ニ代リテ名ヲ受クル也、故

ニ敢テ先チ入ラス、士會曰ク、汝此ノ如クナレハ吾禍ニ免ル、ヲ知ル、卻克晋君ニ見ユ、公曰ク、子ノ力メタルカナ、對ヘテ曰ク、君ノ訓ヘ也、諸將二三子ノ力メタルナリ、克何ノ力メカ之アラン、士燮見ユ、君之ヲ勞フコト卻克ヲ勞フ如シ、對ヘテ曰ク、庚ノ命スル所ナリ、克ノ制スル所ナリ、臣何ノ力メカ之アラン、欒書公ニ見ユ、公勞フヲ嚮ノ如シ、對ヘテ曰ク、燮ノ詔クル也、士ノ命ヲ用井ル也、書何ノ力メカ之アラン、

第四章

○詩ニ云ク、周道砥ノ如シ、其直キヲ矢ノ如シ、君子

ノ履ム所小人ノ視ル所傳ニ曰ク砥ノ如シトハ其  
平ナルヲ言ヒ、矢ノ如シトハ其直キヲ言フ、

○大學ニ曰ク身念懷スル所アレハ、則其正キヲ得  
ス、恐懼スル所アレハ、則其正キヲ得ズ、好樂スル所  
アレハ、則其正キヲ得ス、憂患スル所アレハ、則其正  
キヲ得ズ、心在ラサレハ視レトモ見エズ、聽ケレ聞  
エズ、食ヘトモ其味ヲ知ラス、

○曾子曰ク自反リテ縮クンハ、千萬人ト雖、吾往ン、  
自反テ縮カラスンハ、褐寬博ト雖、吾懼レサランヤ、  
○人君タル者、心ヲ正シテ以テ朝廷ヲ正クシ、朝廷

ヲ正クシテ以テ百官ヲ正クス、百官ヲ正クシテ以  
テ万民ヲ正クス、四方遠近取テ正カラサル無シテ、  
而メ邪氣其間ニ奸ス者アルナシ、董仲舒對策

○葉公孔子ニ語テ曰ク吾黨躬ヲ直クスル者アリ、  
其父羊ヲ攘ムテ子之ヲ證ス、孔子曰ク吾黨ノ直キ  
者ハ是ニ異ナリ、父ハ子ノ爲ニ隱シ、子ハ父ノ爲ニ  
隱ス、直キヲ其中ニ在リ、

○蒲生氏郷勇武當時ノ諸將ニ秀出シ、大封ヲ領ス  
ルニ至レリ其家ニ佐々木盛綱ノ鎧ヲ藏シ、重器ト  
ス、細川忠興之ヲ乞フニ、氏郷與ヘントス、左右ノ人

其世傳ノ重器ナルヲ以テ形狀相似タル者ヲ以テ  
贈レト勸ム氏郷曰ク是ノ如クセハ與ヘサルベシ  
然リト雖古歌ニ云ハスヤ無名ント人ニハ言ヒテ  
止ミナマシ心ノ問ハ、如何カ答ヘント吟シテ遂  
ニ世傳ノ鐙ヲ贈レリ、

○宋司馬君實年五六歳青胡桃ヲ弄フ女兄爲ニ其  
皮ヲ脱セント欲シテ得ズ女兄去リ一婢子湯ヲ以  
テ之ヲ脱ス女兄復來テ胡桃皮ヲ脱スル者ヲ問フ  
君實曰ク自脱ス父和中適見テ之ヲ訶シテ曰ク小  
子何ソ謾語ヲ得ルヤ君實是ヨリ敢テ謾語セス後

儒曰ク公ノ才德本アルヲ知ル、

第五章

○孟子曰ク伊尹有莘ノ野ニ耕シ而メ堯舜ノ道ヲ  
樂ム其義ニアラズ其道ニアラサルヤ之ニ禄スル  
ニ天下ヲ以テスルモ顧ミズ馬ヲ繫ク丁千駟ナル  
モ視ス其義ニアラズ其道ニアラサルヤ一父モ以  
テ人ニ與ヘズ一今モ以テ人ニ取ラズ  
○又曰ク以テ取ルベシ以テ取ル丁ナカルベシ取  
レハ廉ヲ傷フ

又曰ク雞鳴テ而メ起キ蓐ヲトシテ善ヲ爲ル者ハ



舜之徒ナリ、雞鳴ヲ而メ起キ、孳々トシテ利ヲ爲ル者ハ、蹶カ徒ナリ、舜ト蹶トノ分ヲ知ラント欲セハ、利ト善トノ間ナリ。

○程子曰ク、義ニ對ナシト、義ノ貴キ比フヘキ物ナキ也。然シテ愚者ハ利欲ノ爲ニ道ヲ忘レ、少ナル利欲ヲ愛シ、大ナル義理ヲ失フ、是私欲ノ迷ニシテ、本心ニ非、本心ヲ失ヘハ、智モ暗クナリ、義理ヲ捨テ、財利ヲ取ル、譬ヘハ十斤ノ金ヲ捨テ、一斤ノ銅ヲ取ルカ如シ、輕重貴賤ヲ知ラサル也、初學訓。

○素ヨリ鄙悋ナル者、古人ノ義ヲ貴ヒ、財ヲ輕シ、私

ヲ少シ欲ヲ寡シ、盈ルヲ忌ミ、滿ルヲ惡ミ、窮ヲ賤シ、匱キヲ卹ミシヲ觀テ、赧然トシテ悔イ、耻チ、積テ能散サン、丁ヲ欲ス、顏氏家訓。

○伯夷ハ、潔白ナル性質ニテ、惡人ノ朝ニ立ズ、惡人ト言ハズ、惡人ハ朝ニ立チ、惡人ト言フ、朝衣朝冠ヲ以テ、塗炭ニ坐スルカ如シ、是一偏ニ倚レバ、今不義ノ財ニ臨ミ、不義ノ富貴ヲ得ン時ハ、伯夷ノ如ク、潔白ニシテ、聊身ヲ汚ガルベシ、良齋閑話。

○天野三郎兵衛康景、徳川氏ノ功臣ニシテ、駿河興國寺ノ城主トナリ、三万石ヲ領セリ、嘗營作ノ爲、竹

又續々輕卒ヲシテ守ラシム、幕領小田原ノ民、此行  
ヲ盜ムヲ以テ、輕卒捕ヘテ之ヲ殺ス、殘黨逃レ去テ  
代官ニ訴フ、代官人ヲ康景ニ遣ハシ、我ニ問ハズシ  
テ、幕領ノ民ヲ殺ス、輕卒ノ罪ナリ、輕卒ヲ誅セヨ  
ト云フ、康景曰ク、盜ヲ殺スハ、古今ノ通法ナリ、何ノ  
罪カアラン、且輕卒私ニ殺スニ非、康景命シテ殺サ  
シム、罪アラハ康景之ニ當ラント、代官康景ヲ以テ、  
其輕卒ニ黨スト爲テ、幕府ニ訴フ、幕府本多正純ヲ  
使トシテ、輕卒中一人ヲ誅セヨ、然ラサレハ、主君ノ  
威ヲ損スト喻サシム、康景曰ク、主君ノ威ヲ損スト

云フトキ、如何ス可ラズ、然リト雖罪ナキ卒ヲ殺シ、  
我身ヲ立ルハ士ノ爲ル所ニ非ト、三万石ノ祿ヲ棄  
テ、逃レ去リ、往ク處ヲ知ラズ  
○平安ノ饑人、路ニシテ黃金ヲ拾ヒ、遺シタル主ヲ  
訪ヒテ之ヲ還ス、主ノ曰ク、子ハ饑エタリ、財貨ヲ拾  
ヒ得タルハ是レ天ノ賜モノナリ、然ルニ此行アリ、  
其潔キ氷ノ如シ、中心ニハ之ヲ欲スルヤ、饑人晒ヒ  
テ曰ク、予不幸ニシテ饑死スルモ、是レ乃天ノ賜モ  
也、夫レ死ヲ惡クミ、天ノ命ニ背キ、塵芥ヲ貪ルタ  
モ、猶爲ズ、況ヤ黃金ニ於テヲヤト、

○清宗定九少キ時母陳氏ニ侍ル母寡貧ニシテ歲凶ニ逢ス飢ニ啼キ寒ニ號ヘトモ初ヨリ宗族ニ内ヒテ借貸セス母曰ク餓死ハ是レ事ノ小ナル者ナリ十歳ノ童子ニ顔面ヲ汚シ以テ人ニ物ヲ求メシメハ此ヨリ廉耻品行アルヲ知ラジ是レ事ノ大ナル者ナリ時ニ以テ名言トス

第六章

○子夏曰ク君子信セラレテ而後其民ヲ勞セシム未信セサレハ已ヲ厲ストス信セラレテ而後陳ハ未信セサレハ已ヲ謗ルトス

○子貢政ヲ闡ス子曰ク食ヲ足ラシメ兵ヲ足ラシメ民ハ之ヲ信ニス子貢曰ク必已ムヲ得スシテ去テハ斯三ノ者ニ於テ何ヲカ先ニセン曰ク兵ヲ去ク子貢曰ク必已ムヲ得スシテ去テハ二ノ者ニ於テ何ヲカ先ニセン曰ク食ヲ去テン古ヨリ皆死アリ民信ナケレハ立タズ

○春秋ノ時周鄭交質シテ又交惡ム君子曰ク約中ヨリセサレハ質モ益ナシ明恕シテ行ヒ之ヲ要スルニ禮ヲ以テセハ質アルヲナシト雖誰カ能之ヲ間テン苟モ明信アレハ澗谿沼沚ノ毛蘋蘩藻藻ノ

菜筐宮錡釜ノ器、潢汙行潦ノ水モ、鬼神ニ薦ムベシ。  
王公ニ羞ムベシ、而ルヲ況ヤ君子ニ國ノ約ヲ結ヲ  
ヲヤ、之ヲ行フニ禮ヲ以テセハ、又焉ノ質ヲ用井メ  
○人ニ交ルニ贈物ヲ以テスルハ、愛敬ノ誠ヲ外ニ  
顯ハスナリ、古神ニ事ルニ蘋藻ノ薦物アリ、是潔キ  
水牒ヲ以テ神ニ供フル也、初テ師ニ見ユルニ束修  
ノ禮アリ、是鮮ナル贄ヲ持チ徃キテ、師ニ呈スル也、  
神ニ事フルモ、人ニ交ルモ、是ノ如クセサレハ、愛敬  
ノ誠顯レサレハ也、大和俗訓

○德川將軍秀忠、常ニ下ニ對シ、信義ヲ失フヲ懼

ル、故ニ一タヒ群臣ニ令ヲ下シ、期ヲ刻スル事ハ小  
事タリト雖、必箸ヲ投ケテ出テ、毫モ其期ヲ失ハス  
侍臣等相謀リ、食時ノ期ニ及ヘハ、自鳴鐘ヲ停メ  
テ、時刻ヲ報スル無ラシム、井伊直孝之ヲ聞キ、侍臣  
等ヲ讓テ曰ク、卿等君ニ事フル臣下ノ道ヲ知レリ  
ヤ、夫レ君信ヲ好メハ、臣當ニ信ヲ以テ其德ヲ輔ク  
ヘシ、今卿等不信ヲ爲シ、其心ニ副ハント欲ス、是君  
ヲ欺クナリ、臣君ヲ欺クハ、其罪輕カラズ、且群臣ハ  
君ヲ去ルコト遠キヲ以テ、君斯ク信ヲ好ムト雖、曾  
テ之ヲ知ラス、或ハ心ニ君ヲ恨ミ、終ニハ上下ノ情

隔夕リ姦臣其間ニ立夫種々ノ姦計ヲ以テ事ヲ仕  
出ス者ナリ卿等之ヲ思ヒ此後ヲ慎ムベシ

○晋侯重耳原ヲ圍ムニ三日ノ糧ヲ命ス三日マデ  
原降ラス命シテ之ヲ去ントス謀者出テ還リテ曰  
久原將ニ降ラント軍吏曰久請フ之ヲ待タン重耳  
曰久信ハ國ノ寶也民ノ庇ハル所ナリ原ヲ得テ  
信ヲ失ハハ何ヲ以テカ之ヲ庇ハン失フ所滋多シ  
ト一舎ヲ退テ而メ原降レリ

第七章

○子貢問テ曰久一言ニシテ而メ以テ終身行フヘ

キ者アリヤ孔子曰久其レ恕カ已欲セザル所人ニ  
施ナクス

○孔子曰久君子ノ道四丘未一ヲ能セス子ニ求ル  
所、以テ父ニ事ルヲ未能セズ臣ニ求ル所以君ニ事  
ルヲ未能セズ弟ニ求ル所以兄ニ事ルヲ未能セ  
ズ朋友ニ求ル所先ツ之ヲ施スヲ未能セズ

○人ニ交ルニ恕ヲ以テスベシ恕トハ已ヲ推シテ  
人ニ及ホスナリ言フ意ハ我心ヲ以テ人ノ心ニ比  
フルニ違フヲナシ我好ム所ハ必人モ好ム我嫌ス  
所ハ必人モ嫌フ故ニ我心ヲ以テ人ノ心ヲ推シ量

リ、我嫌フコトヲ人ニ施サズ、我好ム所ヲ人ニ施スベシ、大和俗訓

○人過アラバ、凡夫ハカクモ有ラント思ヒ、之ヲ宥スベシ、咎ム可ラズ、人ノ得ザル所、責ム可ラズ、頑ナルヲ念ルベカラズ、人ノ我ニ無禮ヲ行ハバ、理ヲ知ラサル故ナリトシ、怨ム可ラズ、聖人頑ナルヲ念リ疾ムコト勿レト云ヘリ、頑愚ナル者ノ爲ル所ハ、赤子ノ井ニ陥ルガ如シ、理ヲ知ラサル故トシ、之ヲ憐ム、是皆恕ノ道ナリ、

○醍醐帝天質慈仁ニシテ、深ク民ヲ愛シタマフ、嘗

寒夜ニ、親ヲ御衣ヲ脱シ、以テ民ノ凍餒ノ苦ヲ省ミ、群臣ヲ見ルニ、毎ニ假スニ顔色ヲ以テシ、彼ヲシテ言ヲ發シ易カラシム、嘗曰マハク、已ヲ持スルコト嚴格ナレハ、人言ヲ盡シカタシ、故ニ朕常ニ顔色ヲ温ニシテ、諫言ヲ來タスト、

○孔子曰ク、已立ント欲シテ人ヲ立ツ、已達セント欲シテ人ヲ達ス、貝原益軒曰ク、我身ニ善ヲ行ヒテ人ニ善ヲ勸メ、我身ニ惡ヲ去リテ人ノ惡ヲ戒ムベシ、是ノ如クナレハ、人從ヒ易シ、是レ已ヲ推シテ人ニ施ス也、即亦恕ノ道也、



○鄭伯弟アリ、大叔段ト云フ、母姜氏之ヲ愛シ、段謀  
反シテ母之ヲ啓ケリ、鄭伯母ヲ城潁ニ寘キ、黃泉ニ  
及ハサレハ、相見ル無ラント誓ヒ、既ニシテ之ヲ悔  
イタリ、潁谷ノ封人潁孝叔、之ヲ聞キ物ヲ公ニ獻ス、  
公之ニ食ヲ賜フ、孝叔他物ヲ食フテ肉ヲ食ハス、公  
之ヲ問フ、對ヘテ曰ク、小人母アリ、皆卑賤、小人ノ食  
ヲ食ラヒ、未君上ノ羹ヲ嘗メス、請フ之ニ遺ラシ、公  
曰ク、汝母アリテ之ニ遺ル、繫我獨母ナシ、潁孝叔云  
々ヲ知ラサル爲子シテ曰ク、敢テ問フ何ノ謂ハ、公  
之ニ誓言及後悔ヲ告ク、對ヘテ曰ク、君何ソ患ヘン、

若シ地ヲ闕キ泉ニ及ビ、隧道ニシテ相見ハ、其レ誰  
レ力然ラスト云ハ、ン公之ニ從ヒ、公母ト相見テ皆  
喜ヒ、其樂ヲ賦ス、母子タルヲ初ノ如シ、君子曰ク、潁  
孝叔ハ純孝ナリ、其母ヲ愛シテ莊公ニ及ホセリト

### 第八章

○孔子曰ク、北方ニ獸アリ、蟹ト云フ、前足ハ鼠ノ如  
ク、後足ハ兔ノ如シ、是獸甚強々、巨虚ノニ獸ヲ愛シ、  
甘艸ヲ得レハ、必齧ンテニ獸ニ遺ル、故ニニ獸人ノ  
來ラントスルヲ見レハ、必蟹ヲ負テ走ル、蟹ソノ性  
ニ獸ヲ愛スルニ非、其足ヲ假ルカ爲ナリ、ニ獸モ亦

蟹ヲ愛スルニ非、其甘艸ヲ遺ルカ爲ナリ、夫レ禽獸  
昆蟲スラ、猶相假テ相報スルヲアリ、況ヤ士君子ヲ  
ヤ、臣トシテ君ノ恩ヲ報セスシテ、私門ヲ營ムルハ、  
禍ノ原也、君トシテ臣ノ功ニ報セスシテ、褒賞ヲ難  
ンスルハ、亂ノ基也、說苑

○夫人ノ恩惠ヲ受ケテハ多ク記省セスシテ、人ニ  
惠ム所アレハ微物ト雖、亦歷々トシテ心ニ在リ、故  
ニ古人言フ、人ニ施テハ念フヲナク、施シヲ受ケテ  
ハ忘ル、ヲナクスルハ、誠ニ難事タリ、袁米

○天地我ヲ生テ、我ヲ鞠フヲ能ハス、父母我ヲ鞠フ

テ、我ヲ成スヲ能ハス、我ヲ成スモノハ夫子也、道嘗  
天地父母ノミナラス、夫子ニ通シテ極リナキ恩ヲ  
受ク、文中子

○司馬君實曰ク、人ノ恩ヲ受ケテ、負クニ忍ビサル  
者ハ、其子トシテ必孝ナリ、臣トシテ必忠ナリ、

○人亂世ニ遇ハズシテ、治世ニ住ムハ、大ナル幸ナ  
リ、是世ヲ治メタマフ大君ノ恩也、大君ハ、天地ト均  
ク大父母ナリ、其威德ニ頼リテ世治マリ、我身安ク  
樂ク此世ニ住ムハ、是四民トモニ大恩ヲ蒙ルナリ  
仰キテ忘ル可ラズ、初學訓

織田右府毛利氏ヲ伐シ時、黒田如水早ク二氏ノ  
輕重ヲ辨シ、右府ニ服ス、嘗、荒木村重ノ處ニ使ス、時  
ニ村重異心アリテ、如水ヲ捕ヘ獄ニ繫久、右府如水  
モ亦叛キ去ルトシ、竹中重治ニ命シ、如水ノ子長政  
ヲ殺サシム、重治素ヨリ如水ノ多智ナルヲ知リ決シテ  
右府ニ叛カサルヲ保テ、潜ニ之ヲ匿ス、村重城ヲ逃  
ルニ及テ、如水脱シ來ル、右府長政ヲ殺ス、ヲ悔イ  
テ、而メ長政死セズ、重治ノ處ニ在リ、此時重治ノ鑒  
識ニアラサレハ、長政宛死ヲ免ル、ヲ得ズ、故ニ長  
政重治ヲ父トシ視、其餅ノ衣号ヲ乞ヒ、子孫ニ至ル

マテ、永ク其恩ヲ報シテ、衰フルナカラシメリ、  
○晋趙盾首山ニ田リシ翳桑ニ舍リ、人ノ餓エタル  
ヲ見テ、其病ヲ問ヘハ、曰ク、食ハサル、三日ナリト、  
之ニ食ハシムルニ、其半ヲ舍ク、之ヲ問ヘハ、曰ク、官  
學スル、丁三年、未母ノ存否ヲ知ラズ、今家ニ近シ、請  
フ以テ之ニ遺ラン、盾之ヲ盡サシメテ、簞食ト肉ヲ  
ツクリ、之ヲ橐ニ置キ以テ之ヲ與ス、晋侯盾ノ驟諫  
ムルヲ疾ミ、饗シテ殺サントス、侯ノ介士一人戟ヲ  
倒ニシテ、盾ヲ救フテ之ヲ免レシム、盾其故ヲ問ヘ  
ハ、對テ曰ク、翳桑ノ餓人ナリト、其名ト居ヲ問ヘハ、

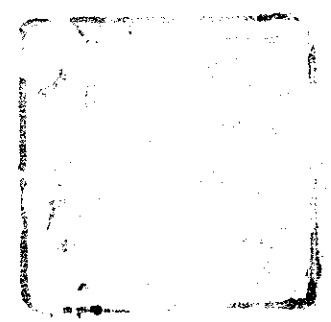
告ケズシテ退久、餓人ハ晋人ニシテ靈輒ト云フ、

○清鄭變字ハ克柔板橋ト號ス、興化ノ人ナリ、少シテ特ミヲ失ヒ、乳母費氏ノ撫養ニ依ル、嘗テ歲飢ウ、乳母晨ニ負ヒテ市ニ入リ、一錢ヲ以テ一餅ヲ買ヒ、變ノ手ニ置キタリ、後年乳母ノ夫他所ニ去ラント謀ル、乳母敢テ變ニ告ケズ、常ニ泣容ヲ帶ヒ、水ヲ汲ミ甕ニ盈テ薪ヲ置キ、數日ニシテ去レリ、變乳母ノ室ニ入ルニ、竈上ニ猶飯一器菜一盂アルヲ見ル、蓋變ニ奉スルナリ、變輒持シテ泣ク、未幾ク時ナク、費氏復來ル、變ノ子俊遊官シテ提塘官ヲ得、屢迎養セ

ントスレ氏、變往クヲ肯セス、詩ヲ作りテ云ク、食祿  
千万鍾、不如餅在手、

明治三十一年二月調查

代價



明治十五年三月廿四日版權免許  
同 年五月刻成

編輯人 福岡縣士族 宮本茂任

同 縣士族 宗盛 年

同縣同區地行公番町手子番地

出版所 連壁書樓製本會社

同縣同區地行公番町手子番地